

漢方とは

2020年4月 張 建偉

【漢方は古来中国から日本に伝わり、日本で発展してきた伝統医学】

漢方医学は西洋医学と違う医療体系で、西洋医学だけで解決できない病気やつらい症状に効果が現れるため、近年注目されています。



【漢方医学】

伝統的な望(見る)・聞(耳鼻を使う)・問(質問)・切(手で触れる)の方法で人の身体と心についての情報を集めます。さらに「陰陽五行」「五臓六腑」「気・血・水」などの理論に基づき分析して、これらの症状を「証」と診断します。「証」は患者の体質、病気の原因、位置、進行状況などが現れます。この「証」に合う漢方薬で体を整え、人の体が持っている機能を回復するように調整します。

中医学を土台にした漢方医学は、自然と社会環境が人体に影響を与えることや一箇所の病気が体全体に影響することを重視しています。一人一人に応じた漢方薬を処方し、状態の変化に応じて薬を変えていく場合があります。違う病気でも、漢方の分析で「証」が同じ場合であれば同じ漢方薬を使うこともあります。病気の一步手前の状態(未病)に、漢方治療をすると、病気の予防になります。西洋医学は主に病気に対しての治療で、漢方医学は主に病気を持っている人の体や心についての総合的な治療と言えます。

【漢方薬の原料】

漢方薬の原材料は、化学合成はなく、ほとんど植物性で、一部動物性、鉱物性で、なつめ、はと麦、ミントなどの食品やハーブなどさまざまなものがあります。これらの原料を選別、加工すると漢方生薬になります。

製薬メーカーは、規定の処方によって生薬を加工してエキス剤漢方薬にします。

エキス剤は、携帯や保管に便利で、手軽に使えますが、個人のさまざまな症状に合わせて、生薬を加減することはできません。処方の生薬を煎じた液体を漢方煎剤と言い、体質に合わせて生薬の種類と量を加減することができます。西洋薬に比べて、天然・複合のもので、副作用が少ないのが特徴です。漢方医学では漢方薬を使うため、漢方薬を漢方と呼んでいる場合もあります。



※張建偉先生は Viridian 人気イベント「中医学食育講座」の講師です